

審査員講評

【応募作品全体について】

- ・構成や見出しが工夫され、写真や表・グラフなども効果的に使われており、新聞づくりのレベルが年々上がってきた。また、地域の人や自然の魅力、防災、環境等、様々な題材を取り上げていた。
- ・読み手を意識して記事が書かれており、学校での学習が充実していることが伝わってきた。
- ・知識を体験や行動に結び付けている作品が多く見られた。

【小学校低学年の部の作品について】

- ・タイトルに工夫があり、記事は低学年らしい素直な表現で、読み手に興味をもたせる新聞になっていた。
- ・新聞づくりを通して気付いた「地域の方に支えられている」という感謝のメッセージが強く伝わってきた。

【小学校中学年の部の作品について】

- ・つくり手の感性の豊かさ、繊細さが伝わってきた。
- ・イラストを効果的に使って強い印象を与えるなど、読み手を引きつける工夫がされていた。

【小学校高学年の部の作品について】

- ・地域の課題に問題意識をもって取り組んでおり、実際に現地に行って取材をしたり、体験したりしたことに基づいて記事が書かれていたことが優れていた。
- ・調べて分かったことを実際に実験・検証し、その結果を分かりやすくまとめたことで、読み手を説得する力があつた。

【中学校の部の作品について】

- ・新聞としての大切な要素をバランスよく一つの新聞にまとめていた。
- ・記事にする事柄を精選し、表現を工夫することで文字数を減らしたり、イラストや文字を丁寧書いたりすることで、読みやすい紙面を意識していることが伝わった。

【プレゼンテーションについて】

- ・プレゼンテーションの準備や練習がよくできており、新聞づくりを通して学んだことがよく伝わった。
- ・発表者自身がプレゼンテーションを楽しんでいるのが伝わってきた。

【留意してほしいこと】

- ・インターネットで得た情報だけに頼って記事を書くのではなく、実際に取材をしたり、本で調べたりして得たいくつかの情報を比較、検討した上で取捨選択し、記事にすることが大切である。